お墓と話そう
最近あなたは、ありがとうを伝えに行きましたか？
News Letter Vol.16

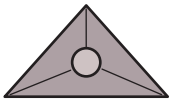
一度は見ておきたい重要文化財シリーズ 奈良の旅編 その2

今回は「一度は見ておきたい重要文化財シリーズ·奈良の旅編 その2」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介し、その魅力に迫っていきます。

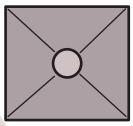
観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を肌で感じ、目で愉しみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

東大寺 伴墓三角五輪塔（奈良県奈良市川上町）

「五輪塔」を建てると、亡くなった人はみな、最高の位と最高の世界へゆけるとされ、今日もなお、宗派を問わず「ありがたい最高のお墓」とされています。



三角五輪塔



一般的な五輪塔

東大寺伴墓（ともばか）三角五輪塔は、珍しい三角錐の火輪をもつ五輪塔です。火輪は「三角」と定義されており、すべての面が三角である三角錐の形状は、五輪塔の本来の形であるということもできます。

なお、五輪塔は、自然の五要素を下から四角·丸·三角·半月·団円を積み上げた平面図に基づいたものなので、現代で多く見られる四角錐の火輪でも正解です。

五輪塔の他、お墓のデザインに関しての記事がございますので、ぜひご覧ください。

◆お墓のデザインはどんなものがある？

特　徴

きめの粗い花崗岩製で、塔高約173cm。

直接地面に据えられており基壇や台座は見当たりません。地輪の上端面はほぼ水平になっており、各側面の中央には、梵字「ア」が大きく薬研彫りされています。

そして最大の特徴は火輪です。通常の五輪塔の火輪は、底面が四角の四角錐ですが、ここでは底面も三角の三角錐になっています。軒の厚さや反り返りはありませんが、三辺の軒の線は外へふくらんでいます。水輪は下ぶくれで、空輪が少し押しつぶした形になっています。

歴　史

奈良時代（8世紀初め頃）、現在の共同墓地公園・三笠霊苑の一番上から少し下がった場所に、大納言・大伴安麻呂が永隆寺（えいりゅうじ）を創建しました。

大伴氏の氏寺であったため伴寺とも呼ばれ、後に東大寺の末寺となりました。その後、伴寺は廃絶し東大寺の墓所となっています。「伴墓」の由来はここからきています。

伴墓三角五輪塔は、東大寺俊乗堂の辺りから元禄16年（1703年）に今の地に移され、三角五輪塔を好んで作った俊乗房重源（しゅんじょうぼう ちょうげん／源平の争乱で焼失した東大寺を復興させた僧）の墓といわれています。

なお、鎌倉時代前期の造立といわれ、1955年2月2日に国の重要文化財に指定されました。

周辺の観光情報

三笠霊苑の近くには、若草山があります。年に1度行われる「若草山焼き行事」は有名で、3つの笠を重ねたように見えるため「三笠山」とも呼ばれています。

山麓ゲートから山頂までは徒歩で約30分～40分。道中は一重目、二重目、山頂（三重目）、鶯塚古墳周辺道などで、それぞれ異なる景観を楽しむことができます。

山頂からは、東大寺、興福寺など、奈良の景観を眺めることができ、おすすめです。「奈良奥山ドライブウェイ」を利用すると車で山頂（三重目）へアクセスすることもできます。

〈開山期間〉3月第3土曜日～12月第2日曜日 9:00～17:00

まとめ

今回は、奈良県にある東大寺伴墓三角五輪塔をご紹介いたしました。平安時代や鎌倉時代の五輪塔が今も残り、その由来が語り継がれているということは、周囲の方が持つ故人への想いは、それはそれは深かったのであろうと想像できます。

供養の想いが時を経て受け継がれていくお墓。その佇まいを、ぜひ現地に足を運んで体感してみてはいかがでしょうか。

交通アクセス

〈鉄　道〉ＪＲ、又は近鉄奈良駅より「青山住宅行」「洲見台行」のバスに乗り「今在家」停留所で下車　徒歩約10分。

〈自動車〉●奈良県内・大阪・神戸方面から：国道369号線を東進。「県庁東」交差点を左折、1kmほど進み「今在家」交差点を右折し約400m。

●京都方面から：国道369号線を東進。「般若寺」交差点を柳生方面へ約300m、1つ目の信号（三叉路）を右折し約200m。